

第9回 JOMF 特別企画セミナー 大阪開催のご報告 (記事スタイル)

2011年12月13日、大阪商工会議所特別会議室において 第9回JOMFミニ・セミナーが開催されました。今回は10月26日に東京の如水会館スターホールにおいて開催された第13回海外医療情報交換会のメインスピーカーとして全日空様より参加戴いた五味秀穂先生のご発表

それに続き、拠点四医師の現地報告を倉林(マニラ)、宮本(シンガポール、ジャカルタ及びシンガポールのMHについて)が、代理報告の形でプレゼン致しました。

更に、11月02日と16日に開催された「タイ洪水 感染症対策セミナー」のうち、02日の方がサラヤ様・渡航医学センター 西新橋クリニックとの共催という形になり、宮本がパネリストとして参加をしたのですが、この点についても、大越裕文院長のご厚意により、最新版のスライドを頂戴し、宮本代理報告という形で進められました。

一講師の発表内容は？

A: 五味先生のメインスピーチですが、『慢性疾患を持つ社員の派遣について ～「究極」のパイロットの健康管理を例に～』と題した講演をして戴きました。東京の情報交換会では、自己紹介を兼ねた部分でアビロードとビートルズのお話で盛り上がりすぎたという点と、医療者向けの言葉が連発されて判りにくかったという点を改善した形ですすめられ、大阪会場ならではの時間のゆとりもあって、時間をフル活用したプレゼンになりました。



全日本空 主席産業医 五味秀穂氏

内容的には、ロンドン日本クリニック(北診療所)での患者さんたちについて、イギリスの NHS 制度で、留学生のお嬢さんが肝移植手術により回復できたというお話をされ、待ち時間(期間)が非常に長いと酷評されるイギリスの制度のおかげで一人の日本人の命が守られたというお話と、メンタルヘルスを患った患者さんへの対応も必要であったという自らの経験談をされた後に、究極の健康管理規定とも言われる航空乗務員の為の『航空法で定められた航空身体検査』基準の紹介と、一旦不適合とされてしまったパイロットたちを再び大空に舞い戻らせる為の「ウェイバー制度」についての解説、つまり毎月開催されている国交省の審査会の内容等について語られました。

一講師の発表内容は？

倉林専務理事からは当初マニラ拠点医師の代理と直前に訪問したマニラ出張のご報告で10分ということであったのですが、時間の関係でマニラの代理報告のみとなりましたが、マニラでの診療者実績の紹介、薬の購入をめぐる薬局の問題点について、報告がなされました。

宮本からの代理報告は、

- ① シンガポールで発生した症例である「メリオイドーシス」の症例紹介を中心に説明、
- ② ジャカルタの **Persahabatan** 病院にできたヒトヒト感染新型インフルエンザ病棟と、「**Prodia**」という健康診断施を中心に説明
- ③ シンガポールのメンタルヘルスについても、患者数が同国の日本人数の1%になっていることや三つの事例紹介、更に何らかのMH疾患を持ったままクリニックに来られる日本人の割合が多いこと等を紹介し、
- ④ タイの洪水対策での大越院長のお話の部分を中心に、一旦洪水が起こるとどの様なリスクが潜んでいるのか、その感染症対策はどの様にすべきかについて、極めて短い時間でしたが、代理報告をさせていただきました。

一参加者数は？

A: 14名の方に参加戴きました。男女別では女性5名、男性9名と夫々50%ずつとなり、職種別では人事・総務・安全管理等の一般参加者が10名、医療職の方が4名でした。大阪での開催はいつも人数少なめでアットホームなセミナーとなっておりますが、今回もアットホームな感じで進み、後述しますが、Q&Aの場面では参加者との活発な意見交換もできたのではないかと考えています。

一参加者の反応は？

A: 活発な討論もできたということもあり、五味先生へのポイントは理解度、共感度、情報の新鮮度の順で、**4.5、4.7、4.7** ポイントという高評価でしたし、我々の代理報告についても東京だけの情報発信に終わらせることなく、大阪での情報発信をしてくれて助かりますといったコメントも多くありました。但し、東京で**17～8**分間の各報告内容を**5**分でリプレーするのは「端折りすぎですよ:笑」という声もありましたので、今後の代理報告についてはまた更なる一工夫が必要になるのではないかと思います。



とはいえ、五味先生のお人柄の問題もあったのか、終始笑顔がこぼれるセミナーでしたので、「こりゃあ駄目だ!」ということにはなかったです:笑

☛ 或る時は楽しそうに、ある時は真剣に、、、参加者の表情です。 ☛



一確かにオリジナルが15分ずつとして5分での代理報告というのは厳しいかもしれませんね。

A: ええ、でも、手元資料にはきちんとした表等があるので、そういう部分の説明をくどくどとせずに、何がハイライトだったのか、何に対する参加者の関心が、評価が、高かったのか。。。これらをしっかり掌握できていれば、**5**分でも問題ないのではと考えています。政府高官や幹部等へのブリーフィングにしたって、同様だと思うのです。ダラダラとやるから駄目なのであって、図表では言い表せない点、発表者の強く感じた或いは言いたいことといった、「要所だけを説明」する方法もあり得ますので。

一先ほど後述すると仰っていたのは？

A: フリーディスカスの際のお話です。

通常、こちらから何かしかけながら参加された方々からの質問や意見を求めていくのですが、今回は、『関西人のノリ』なのか、五味先生のお話がよほど興味部かかったのか、次から次へと質問の手が上がり、それらが、「私はこれを聞きたい」というだけではなく、前後の方の質問や先生の回答に普通の会話のような自然な流れでディスカスができたということ。これは司会をしている私にとっては願ったりかなったりです。『自然な流れが出来た』ということが司会として嬉しかったです。

一次回ミニ・セミナーは？

A: 昨年9月から開始しているニュースレターのコラムに「コーチングについて学ぼう」というのがありますが、この本編を執筆戴いている来栖佳子さんと導入部を書いて戴いた下野淳子さんによるコーチング術の有用性について、3月に大阪、4月に東京で実施する予定です。



人数が少ないと寝る時間はありません。皆真剣に、でも楽しく聴講されていました。

